

シラバス (授業計画)

授業科目名	開講学年	必・選	単位数	担当教員名
税法学特論Ⅲ (法人税法①)	1・2 年生	選択	2	宮崎裕士
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>法人税法の法令の条文を読解でき、具体的事例に適用できる能力を身に付ける。法人税法の体系的知識を習得する。</p>				
<p>授業の概要</p> <p>授業の進め方は、研究生が司会班、説明・回答班、質問班の3班に分かれて討議を行う方式による。そのため、講義範囲のテキストを事前に熟読し理解しておくことが不可欠である。討議の内容や理解度に応じて、教授が質問・解説を行う。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 総説</p> <p>第2回 法人所得の意義と計算 (総説) ①益金</p> <p>第3回 法人所得の意義と計算 (総説) ②損金</p> <p>第4回 資本等取引</p> <p>第5回 企業会計と租税会計との関係①</p> <p>第6回 企業会計と租税会計との関係②</p> <p>第7回 益金の額の計算</p> <p>第8回 損金の額の計算① (売上原価～資産の評価損)</p> <p>第9回 損金の額の計算② (役員給与等)</p> <p>第10回 損金の額の計算③ (寄附金～準備金)</p> <p>第11回 損金の額の計算④ (交際費等～使途秘匿金)</p> <p>第12回 損金の額の計算⑤ (繰越欠損金～組合等の法人組合員の損失)</p> <p>第13回 同族会社と所得課税</p> <p>第14回 公益法人等関係税制</p> <p>第15回 法人税額の計算および法人税の申告等</p>				
<p>履修上の留意点、準備学習等 (事前・事後学習)</p> <p>簿記・会計の知識が不可欠である。</p> <p>税法の読み方の基本を、伊藤義一『税法の読み方判例の見方 [改訂第3版]』(TKC出版)によりマスターしておくこと。</p> <p>授業範囲の税法・テキストを読解しておくこと。</p> <p>各回、少なくとも、2時間程度の事前学習、2時間程度の事後学習が必要である。</p> <p>特に、授業等で十分理解できなかった点は、事後学習で理解を深めること。</p>				
<p>テキスト</p> <p>『実務 税法六法 (法令編・通達編) [最新版]』(新日本法規出版)、金子宏『租税法 [第24版]』(弘文堂)、『スタンダード法人税法 [第2版]』(弘文堂)、『法人税法 (基礎編) [令和4年度版]』(税務大学校)、伊藤義一『税法の読み方判例の見方 [改訂第3版]』(TKC出版)、『租税判例百選 [第7版]』(有斐閣)</p>				
<p>参考書・参考文献・参考資料等</p> <p>『ポケット六法』(有斐閣)、『租税法概説』(有斐閣)、『税法入門』(有斐閣)、『体系法人税法』(税務経理協会)、『税法用語辞典』(大蔵財務協会)、『ケースブック租税法』(弘文堂)、『税法学・税務会計の論点 (改訂版)』(五弦舎)、『課税所得計算の形成と展開』(中央経済社)</p>				
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>授業への取組状況 (事前・事後の学習状況等)、授業での発言状況、試験等の結果を総合勘案して評価する。</p>				